

のアルバム

▼ 10月27日 コミセンなかさと



子どもたちの「居場所」をめざして

NPO 法人 CLUB ATTRACTION が主催する「ちゅうずこども食堂」が開かれました。

同食堂は、「地域の子どもたちは、地域の人みんなで育てよう!」を合言葉に、平成29年2月から地域の大人とボランティアの大学生が運営し、今回で10回目となります。

子どもたちや大人が気軽に集い、ふれあう「居場所」として、食事や学習、団らんの場を提供し、毎回50人程度が参加しています。

この日も美味しいご飯を食べ、レクリエーションや折り紙を折ったりと、思い思いに楽しい時間を過ごしました。

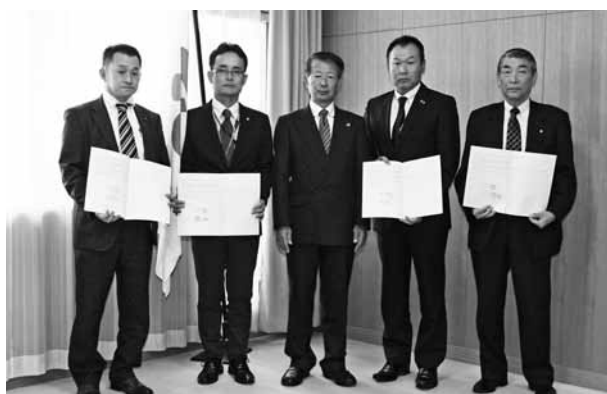
災害時に備え協定を締結

市は、(株)増田医科器械滋賀支店、石黒メディカルシステム(株)、(株)三笑堂滋賀支店および(株)ケンコーの4事業者と「災害時におけるストーマ装具等の調達に関する協定」を締結しました。

これは、災害時における避難所等で、ストーマ装具等を必要とする人に、速やかに装具等の供給を行えるよう、適切な支援体制を整備することを目的としたものです。

市では、災害時の応急対策を迅速かつ的確に実施するため、平時から防災協力体制の構築を図り、安全で安心なまちづくりを進めています。

▼ 10月20日 市役所



▼ 10月10日 市役所



地域でのふれあい活動が評価!

内閣府が実施する平成29年度「エイジレス・ライフ実践事例及び社会参加活動事例」の紹介事例に「野洲市市三宅福寿会ボランティアグループ」が認定されました。

この紹介事例は、年齢にとらわれず、地域社会活動や世代間交流などを積極的に行っている団体等を紹介し、高齢者世代の生活の模範とするためのものです。

同グループは、地元幼稚園や小学校の登園・校時の交通安全見守り活動や田植え、もちつき大会等、子どもたちとのふれあい活動を行い、子どもや保護者から好評を得ていることが評価されました。

これからも地域の「絆」を深める活動に期待しています。

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(159)

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

どうたく 銅鐸の色

銅鐸は弥生時代の青銅器の一種で、祭器として使われたと考えられています。野洲市からは24個の銅鐸が発見されていますが、それらは明治14年（1881）と昭和37年（1962）の2回にわけて見つかっています。

合計14個が出土した明治の発見は、近くに住む少年たちが大岩山へ山遊びに出かけて見つけたことがきっかけです。昭和の発見は、現在、近くを通る東海道新幹線の建設時に10個が出土したものです。

これらの銅鐸の中には、高さ134.7cm、重さ45.47kgを測る日本最大の銅鐸が含まれていますが、今回は、当館のロビーに展示している、日本最大銅鐸の復元品（写真）についてのお話です。

銅鐸は、当時の村から離れた山や丘の斜面に埋められている場合が多く、長い年月を経て、土砂採取や工事、発掘調査などに伴って偶然発見されることが大半です。

今回のタイトルにもあるように、銅鐸の色を問われると、青緑色をイメージされる人も多いと思います。

銅鐸には錫や鉛なども含まれていますが、主成分は銅なので、土中から発見される銅鐸は緑青（銅にできる青緑色の錆び）で覆われたものが多いのです。

大阪府羽曳野市西浦銅鐸のように、緑青の錆がなく金銅色の状態で発見されるものも稀にありますが、一般的に、現在の私たちが、弥生時代に造られた銅鐸をとおして当時の色を知ることは難しいと言えます。

この復元銅鐸は、造られた当時の輝きを再現しているのが特徴です。写真では分かりにくいかもしれませんが、身近なもので例えるならば、新しい10円玉のような色をしています。

謎の青銅器、銅鐸。復元銅鐸が放つ神秘的な輝きの中に、その解明にいたる糸口が隠されているのかもしれない。

（博物館学芸員 角 建一）



日本最大銅鐸の復元品（当館蔵）

休館日：月曜日（祝日は開館）

12月28日(木)～平成30年1月4日(木)

※市民は入館無料



100 歳おめでとう

100歳の誕生日を迎えた吉田すゑさん（安治）を山仲市長がお祝いに訪問しました。

大正6年11月1日生まれのすゑさんは、ゲートボールを約30年間楽しむなど競い合うスポーツが大好きで、ジャイアンツの野球中継をよく観戦されていました。

この日は、ご家族で祝福されていました。いつまでもお元気で。

▼11月1日 安治



日本の技術力でサポート

JICA（独立行政法人国際協力機構）青年海外協力隊の吉川隼人さん（吉川）が市役所を訪れました。

吉川さんは、10月から平成31年までの2年間、ブータンに滞在し、日本から供与された道路建機の保守点検やマニュアルの作成などを行われます。

故障の予防や迅速な修理により、未稼働機を削減し、ブータンの更なる発展に貢献することができます。

日本の技術力を生かして、ブータンの人々のよりよい生活のため活躍されることを期待しています。

▼9月21日 市役所

